

じん3プロジェクト

じん3プロジェクト(人生の3冊の本から始まる、繋がりをづくり)



目的

エリア(片浜・大諏訪線北地区)の価値を広げる
(エリアに芸術と文化の分野で貢献できる仲間を増やすこと)

沼津市に「芸術と文化の分野で貢献」できる仲間作りを目的とし、セミナーやワークショップを開催して協働人材の育成を目指します。「最も個人的な事が、最もクリエイティブである」(パラサイト半地下の家族のポン・ジュノ監督の言葉)に代表されるように、会員それぞれが人生の中で影響を受けた書籍、人、出来事、映画、音楽、建築等の芸術分野を3つ紹介し合います。自分が動かされた力は、他人を動かす力でもある事の証明であり、会員間で嗜好の違いを認め合い、学び合います。

現状

エリアは衰退している

2017年のリノベーションまちづくりの講師西村浩氏が「どこもかしこも駐車場」のテーマの中で、「エリアの価値の向上以外に地方都市の再生はない!」と講演されたことに深く共感しました。その中で、パブリックスペースとして地域開放型私設図書館を開設し、中高生の「ヒントの場」として将来的に、地元へのUターンが得られるのではないかとのおもいに至りました。また、地元製造業が後継者不足のため、廃業をされている現状を目の当たりにし、コロナ禍で持続可能な会社を目指す事をテーマに、世代間交流の促進を目指します。

コミュニケーションの仲間作りの第一歩は「知る」から始まります。個人の嗜好を語り合いながら、会員の共通項と成り得る影響を受けた力(要因)を把握し、鳥の視点、蟻の視点から要因を分析し共有していきます。

芸術と文化は過去を一つの連続性と捉え、歴史と捉え、伝統として捉え、現在を過去の最終的な成果として捉えることができます。個人が感動した3つをディスクローズする事によって、他者との違いが浮き彫りになり「他者を知る」事に繋がり「認め合い」に発展し「知る」事は「違いからの学び合い」と考えます。

活動

人生の3つ(じん3)のワークショップ

今年度は7回開催。D-village4回、大衆酒場tenten1回、片浜地区センター1回、アスクラ口最終HG観戦1回。開催当日の役割分担をクジで決める等遊びの要素も取り入れ、全員参加全員発表型の運営に努めて、参加の充実感を共有。また、開催後に「沼津朝日」に投稿して、活動内容の開示に努めました。
テーマ ① 持続可能な会社経営(蟻の視点と鳥の視点) 自分が大切にしている理念を3つ紹介
テーマ ② これまでに記憶に残っている事件・出来事 ベスト3を発表
テーマ ③ 「私のオリンピック感動シーン ベスト3」を発表 コロナ禍での参加者は10名位でした。欠席者には、事前にアンケートに答えて頂きました。



私設図書館の運営では、知人に「人生の3冊」の寄贈を呼び掛け、今年度は6名の方から45冊の本を頂きました。沼津市出身の宇佐美りんさんの「推し燃ゆ」や桜木紫乃さんの「家族じまい」等について、読后感想会をグループLINEで紹介し合いました。



振り返り課題

コロナ禍で集まれないもどかしさはあるが、繋がる関係の構築

「新型コロナウイルス」は、世界中の経済至上主義に一石を投げ、コミュニケーションの大切さを浮き彫りにした。人は誰かと繋がってこそ真の幸福があると感じます。また、人は表現なくして精神の充足は得られないとの思いを実感します。アフターコロナのその時には、果敢に仲間作りとエリア価値向上に、取り組みたいと思います。大諏訪線北自治会内の主要道路に、親しみやすく夢のあるストリート名を命名する等、地域の活性化に努めたい。

